

目的

家庭科の教授・学習設計は学習者の実態をふまえ、基礎的・基本的な学習内容や学習行動の習得をねらって行なわなければならない。特に実践を伴った学習をさせるには、学習者の情意面・技術面を相当重視し学習者の教材に対する受けとめ方や授業形態の受けとめ方について分析する必要がある。そこで、今回5年生の被服教材「便利な袋」の学習過程を分析し、学習者の心理分析を行なったので報告する。

方法

- (1) 学習前に家庭調査・イメージ調査・父母の意識調査・縫う力の実態調査を行う。
- (2) A～Eの5教授による「便利な袋」の授業を全時間にわたりVTRにより録画・録音する。授業終了時に意識調査を行う。
- (3) 学習後に家庭科・イメージ調査・父母の意識調査・縫う力の実態調査を行う。
- (4) 学習過程を学習者側から分析する。

結果

1. 時間の学習内容の広がりや学習者の意識の相関・発言回数と意識の相関を調べると、学習者の意識に相関が見られた。また、教授者の指導法の違いによる学習者の意識の差や生活経験と学習者の意識の相関は、授業の流れ・教師の発問と教授者と学習者との発言連鎖によるコミュニケーションパターン類型によって、異なったり、家庭での手伝いや、針を使っての作品作り等の生活が、意識に影響する。